

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 城陽市立寺田小学校 】

1 実践テーマ	【 Ⅲ 】
2 実施対象者	第5学年 71名 第6学年 70名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間)
4 目標 (ねらい)	パラリンピックの競技に取り組む選手との交流を通して、障がい者理解を深めるとともに、選手の思いを知ることで、夢に向かって努力することの素晴らしさや共生社会の在り方について考えることができる児童を育成する。
5 取組内容	<p>公益財団法人日本財団パラスポーツサポートセンター（旧：日本財団パラリンピックサポートセンター）主催「あすチャレ！ジュニアアカデミー」講演</p> <p>(1) 日時 令和3年11月15日（月）</p> <p>(2) 講師 戸田 雄也 パラ・パワーリフティング選手 （所属：日本財団パラスポーツサポートセンター）</p> <p>(3) 対象 第5学年 71名 第6学年 70名</p> <p>(4) 内容</p> <p>戸田雄也講師にこれまでパラリンピック競技に関わってこられた体験談を聴き、障がい者への理解を深め、目標をもって最後まであきらめずに取り組む大切さについて考えを深めることができた。</p> <p>また、講演の中で、戸田講師が「もし私が困っている場面に遭遇したら、みなさんはどうするか。」という問いに対し、児童が様々な支援策を考え始めた様子を見て「これが大切です。みなさんは、今、私のために自然と何ができるかいろいろ考えました。自分は今、何ができるか考えることから始まります。」という話をされた時に、児童は共生社会の中で、相手を意識し自分は何ができるかということについて初めて深く考えた児童も多く貴重な経験となった。</p> <p>(参考)</p> <p>あすチャレ！ジュニアアカデミー公式ウェブサイト https://www.parasapo.tokyo/asuchalle/junioracademy</p>



6 主な成果	<p>パラリンピックスポーツについて知ることができた。またそれに関わる選手や周りを支える家族、スタッフの努力や苦勞について体験談を聞くことができた。パラリンピックスポーツが、児童にとってより身近なスポーツに感じることができる良い機会となった。</p> <p>また、今後、自分たちが障がいを抱えて暮らしている方々とどのように関わるのか共生社会についても考えを深めることができた。</p>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>パラリンピック競技選手や競技を支える方々の講演を有意義な時間となるよう、事前、事後指導を実施した。</p>
8 主な課題等	<p>講師の方に、直接、講演していただく機会は大変有意義で、貴重である。次年度以降も、障がい児者理解教育の一環で、講師を招いて、講演を実施したい。ただ、講演料の負担を考えると、規模を縮小するなど工夫が必要である。</p> <p>また、講演の事前、事後の指導内容をさらに充実させて、講演で学んだことをさらに深められるよう工夫していきたい。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>今後も、障がい児者理解教育の一環で、パラリンピックスポーツ選手をお招きし、講演会を実施したい。また、他の学年の学習内容を講演内容と関連させられるようカリキュラムを考えていくことも必要だと考える。その中で「I'm POSSIBLE」の教材は、本校の障がい児者理解教育の中でも継続して活用していきたい。</p>